

炎天下、白球を追う熱闘の甲子園。第93回全国高校野球選手権大会が進行する盛夏、66回目の敗戦の日を迎えた。原爆忌と敗戦記念日と。8月は鎮魂の月である。

言うまでもなく8月15日は精霊を迎え供養する、お盆でもある。この日、愛する人を失った東日本大震災の被災者は、とりわけ哀しみが深いに違いない。



漫画家たちを中心とする「私の八月十五日の会」がそれぞれの「八月十五日」について描いた漫画展を中国東北部の瀋陽で開催している。「戦争の記憶を後世に伝え残すのみでなく、ひろく人類の幸福にかかわる普遍的テーマを、漫画家ならではの絵画的手法を駆使して表現し、現代を生きる人々すべてに向けて、平和を希求するメッセージ

## 中国で「八月十五日」漫画展

を発信し続ける」というのがホームページにある会の趣旨である。

7月10日、中国・瀋陽の「九

・一八歴史博物館」で漫画展のオープニング。「あしたのジョー」のちばつやさん、ギャグ漫画でヒットした丸出だめ夫の森田拳次さんら日本を代表する漫画家10人が参加した。

この博物館は満州事変の舞台となった柳条湖の鉄路の爆破現場

目。瀋陽は旧満洲国の中心都市のひとつで、日本は「奉天」と呼んでいた。日中戦争の歴史の現場である。

漫画展に寄せられた絵は13

0点。ちば、森田両氏も子供のころ瀋陽で暮らした、いわゆる満洲引揚者である。俳優・高倉健や映画監督・山田洋次らの「八月十五日」体験を漫画家たちが描いたものもある。

南京では11カ月間、展示され、

きく報道した。著名な日本の漫画家が漫画を描いてくれるというので、サイン会には長蛇の列ができた。サイン会には長蛇の列ができた。サイン会には長蛇の列ができた。サイン

らを見つめている、高齢の中国人が何人かいたね。ちばつやは、刺すような冷たい敵意の視線に気づいた。だが多くの若い中国人は「あしたのジョー」の主人公・矢吹丈の漫画を描いてもらって大喜びだった。

## 「戦争の記憶」国境越え継承

企画者で

ある、友人

で作家の石

川好のもと

場脇に建てられた。旧日本軍の中国侵略の歴史を展示している。まさに反日教育の象徴のような場で、日本人の敗戦体験の漫画が展示される、というので北京に留学している教え子2人を誘って参加した。

240万人の中国人が観た。北京では尖閣列島の漁船衝突問題が起きて、主催者が宣伝を控えたので入場者は50万人と少なかった。

多くの中国人は日本人の戦争体験を知らない。漫画を観て、

この漫画展、2年前は南京大虐殺記念館、昨年は北京郊外、盧溝橋にある中国人民抗日戦争

初めて日本人もまた戦争の犠牲者だった、という自明の事実に

「私の八月十五日」漫画集の翻

記念館で開かれ、こととして3回

地元中国メディアが一斉に大好企画だった。

想天外の発想をする石川らしい

◇きたおか・かずよし氏 新聞記者、衆院議員秘書を経て渡米。ロサンゼルス在住27年。日本語ニュース・テレビ番組キャスターを務め、2007年、日米相互理解の懸け橋の功績で在ロサンゼルス総領事表彰。08～10年、日大国際関係学部特任教授。著書に「13人目の目撃者」「政治家の人間力」など。熱海市在住。グラウンドワーク三島理事。

執筆略歴